

第1部会【市民協働部門】 会議概要録

【開催概要】

- 名 称：平成25年度 第8回 東区自治協議会 第1部会
- 日 時：平成25年12月10日（火）午前10時00分～正午
- 場 所：東区プラザ 音楽練習室2
- 出席者：五十嵐委員、大野委員、折笠委員、作左部委員、南委員、
井川委員、佐藤委員、若槻委員、渡辺委員
（事務局）地域課、総務課

【審議内容】

1 災害時の避難・誘導対策推進事業（自治協議会提案事業）について

① 防災ミニワークショップ

下山地区コミュニティ協議会の開催実績は下記のとおりです。

- 11月24日（日）下山・太平・向陽・新川・川口・津島屋地区

参加者：下山住民51名 概要録：「別紙1」及び「別紙2」のとおり

- 12月 8日（日）太平・有楽・白銀・豊友・要町地区

参加者：下山住民35名 概要録：「別紙3」のとおり

今後の開催スケジュールは下記のとおりです。

- 12月23日（月）東山の下地区コミュニティ協議会

（月見町・月見第一・錦町・小金町・パークタウン小金・小金町3丁目東・松和町）

② 防災フォーラムについて

当日の役割分担とスケジュールを確認しました。

2 その他

次回開催日 平成26年1月14日（火）午前10時から 東区プラザ音楽練習室2

第1回下山地区コミュニティ協議会・6自治会合同ワークショップ概要録

【開催概要】

- 日 時：平成25年11月24日（日）午前9時30分～12時
- 会 場：下山コミュニティハウス（東区下山1丁目121）
- 参加者：下山住民 35名
（下山 9名、太平1丁目 9名、向陽3丁目 8名、津島屋5丁目 3名、川口町 4名、新川町 2名）

【ワークショップ検討結果】

- 下山自治会
 - ・避難場所は中学校とコミュニティハウス
 - ・避難路を高齢者は5～6分では歩けない。下山の連絡組織図を作成したが、5～6分ではできない。町内だけで末端まで行き渡らせることは困難である。
 - ・サイレンを続けて鳴らしたら、「津波だ、地震だ」という合図を決めておく。それしか連絡方法は無い。
- 太平1丁目自治会
 - ・避難場所は指定の下山小学校と中学校
 - ・住民は避難経路を良く知っており、大きな道路を利用する。
 - ・看板が不足なら自分たちで作ってみてはどうかと思っている。
 - ・230世帯なのでそれぞれが避難し、家族も分散していくこともあると思う。
 - ・連絡網をどうしたら良いか課題になっている。
- 向陽3丁目自治会
 - ・一次避難場所は高台である松崎丘陵
 - ・自主防災組織を立ち上げている。
 - ・各自、自主的に安全な方に避難するよう申し合わせをしている。
 - ・避難する小学校に本部、中学校・丘陵に各班長を決め、連絡を取り合うことにしている。
- 津島屋5丁目自治会・川口町自治会・新川町自治会
 - ・避難場所に小・中学校を指定しても、自治会の範囲が広く遠い方もおり、厳しい状況。
 - ・避難後の水・食料等の救援より命を守ることを優先した場合、一箇所に指定できない。
 - ・場所により近い場合は、一正蒲鉾を避難場所に薦めている。
 - ・新川自治会では、国道バイパスの6mの陸橋があるため、緊急避難場所にしたい。
 - ・飛び地の住民の避難場所は、松崎の高台とする。
 - ・自力での避難が困難な住民は、事前に個人カルテを近所や救援組織に出しておく。

【質疑応答】

- ・住民は防災メールの情報等を知らない。防災に関する文書を自治会から各住民に知らせていくのが一番いいと思う。
→昨年度小学校単位の「ひなん地図」を作成しモデル地区に配布した。今年度残る地区に配布する予定。
- ・避難所まで5分では間に合わないのではどうしたらいいか。
→地域のことは地域の方が一番ご存知なので、簡単なことは言えない。
市長ミーティング等に参加、陳情など、事あるごとに声にしてほしい。
- ・避難する、しないの連絡はすぐ町内に流れてくるのか。
→情報は自分から取りに行ってもいい。最終的には個人の判断。逃げることを癖にする。
地震の際は揺れたら逃げる。皆の問題と考えて欲しい。
- ・防災のラジオの試験放送を聞いているが、「逃げなさい」とか指示がでない。
→防災課で一斉に発信するひとつのラインなので、市の避難指示や避難命令や避難勧告も流れるようになっている。サイレンと共に確実なのが携帯・ラジオ・TVを通じてダイレクトに入ってくるもの。同報無線の整備も進めていく。

第2回下山地区コミュニティ協議会・4自治会合同ワークショップ概要録

【開催概要】

- 日 時：平成25年11月24日（日）午後1時30分～4時
- 会 場：下山コミュニティハウス（東区下山1丁目121）
- 参加者：下山住民 16名
（太平2丁目 5名、向陽2丁目 7名、太平3丁目 1名、向陽1東 3名）

【ワークショップ検討結果】

- 太平2丁目自治会
 - ・避難場所は下山小学校（3階、4階）
 - ・下山小学校まで逃げられない場合は、下山保育園の2階
 - ・自己避難が困難な高齢者や怪我をした人をどうするかが課題である。
 - ・安全を確保しても2次災害が起きない保証はない。避難勧告指示が解除されるまでは救助にいかない。自主防災会役員も行かないことにしている。
 - ・津波警報をどうやって町民に知らせるかが課題。防災ラジオが実際役立つか疑問。
 - ・幼稚園や小学校の屋上での防災無線を設置して欲しい。スピーカーを設置して欲しい。

- 向陽2丁目自治会
 - ・一次避難場所は、河渡中央公園、松崎公園、ウオロク、滝要ビル、第二はじめ保育園
 - ・細長い町内、河渡新町に向かってずっと高くなっている。
 - ・昨年と今年、有楽2、3丁目と白金2丁目で合同避難訓練を行った。
 - ・真ん中周辺住民は、避難場所の河渡中央公園へ向かい、余裕があれば避難場所の松崎公園へ向かう。
 - ・西端周辺住民は、避難場所のウオロクに向かう。
 - ・徒歩が不自由な方は、第二はじめ保育園が良い。
 - ・太平4丁目に3階建ての滝要ビルがあり、ここも良い。
 - ・海拔0mという表示を区役所で進めてほしい。

- 太平3丁目自治会・向陽1東自治会
 - ・一次避難場所はじゅんさい池
 - ・向陽東1丁目は、自宅待機か自宅の2階へ。あるいはじゅんさい池の高台へ向かう。
 - ・自主防災会20～30人を決めて寝たきりの人を誘導する必要がある。
 - ・逃げたほうが良いかどうかは新潟市からは知らされない。自己判断する。

【質疑応答】

・太平2丁目は防災資材倉庫が公園の中にあり、津波があれば真っ先に流される。地域資材置場を工夫したらどうか。

→防災倉庫には毎年、自治会で防災資材を揃えてもらっている。大きな倉庫が必要。

公園は共用スペースのため、協議をし、基礎工事をして設置するようにしている。

新潟市は各避難所単位に必要な最低限の物資を置いておくという調整が始まっている。

第3回下山地区コミュニティ協議会・6自治会合同ワークショップ概要録

【開催概要】

- 日 時：平成25年12月8日（日）午前9時30分～12時
- 会 場：下山コミュニティハウス（東区下山1丁目121）
- 参加者：下山住民 35名
（太平4丁目 7名、有楽2丁目 10名、有楽3丁目 5名、白銀2丁目 5名、
豊友 5名、要町 3名）

【ワークショップ検討結果】

- 太平4丁目自治会
 - ・ 一次避難場所はウオロクの駐車場（海拔11m）。高台に位置している所以他の町内に比べたら恵まれている。
 - ・ 毎年、防災訓練など自主防災会が機能している。
 - ・ 問題として、避難場所の徹底が図られていない。全世帯に避難場所を明示し、配布する必要がある。デイサービスを利用する方の逃げ場所確保の検討必要。
- 有楽2丁目自治会
 - ・ 一次避難場所は河渡中央公園と下山小学校
 - ・ 津波の想定では松崎公園、墓場の辺りが避難場所となるが短時間の対応しかできないと思う。
 - ・ 課題として、逃げる時に道路に電柱が倒れていたり、ブロック塀が倒れるなどは避難の障害になる。災害が平日か休日かでも対応が変わる。
 - ・ 動けない人もいるので身近なところ、中央公園に避難タワーを作ってほしい
- 有楽3丁目自治会
 - ・ 一次避難場所は比較的高い公園
 - ・ 二次避難場所は小学校としていたが新潟地震の時に被害があった場所なので、松崎のお墓場であった場所を二次避難場所として考えている。
 - ・ 問題として、公園入口が4箇所しかなく急な階段もあるので対策を取ったほうが良い。
 - ・ 夜間など日頃から個々で防災対策も必要（水・簡易トイレ等）お年寄りも増え、若い奥さんも増えてきたので連携が必要。
- 白銀2丁目町内会
 - ・ 一次避難場所は津波対策として松崎公園（海拔9m）。二次避難場所を下山小学校として想定している。高台に位置している所以他の町内に比べたら恵まれている。
 - ・ 問題として、災害が起こった場合、火災になったらどうするか。トイレや食料はどうするか。避難場所に人が集中した場合の対策はどうするか。対策が必要であろう。

○ 豊友自治会・要町町内会

- ・ 一次避難場所は、要町は桑名病院の屋上としている。その他は公園を一次避難場所としたい。避難場所にどれくらいの人が収容できるのか確認する必要がある。
- ・ 公園の向かいの5階建ての公務員宿舎前の高台を避難場所としたい。その後に避難せざるを得ない場合、下山小学校と下山中学校を二次避難所と想定している。
- ・ 一般の人が通学路を歩いて小学校、中学校の避難場所まで非常に距離があり、行くルートを把握していないので、その通路に避難経路の看板が必要である。

【質疑応答】

- ・ 避難場所まで道路が冠水して使えない場合などはどうしたらよいか。船かヘリか。
→現実問題として、避難場所がどうあるべきか、今指定されている避難場所で本当にいいのかどうかを検討している。
- 地域の本部にどういう連絡をし、どのような対応をし、物資はどうするのかを検討している。